アジアの発展とリスク

中国、NIEs、アセアンの政治・経済展望

野村総合研究所
東京国際研究クラブ　著

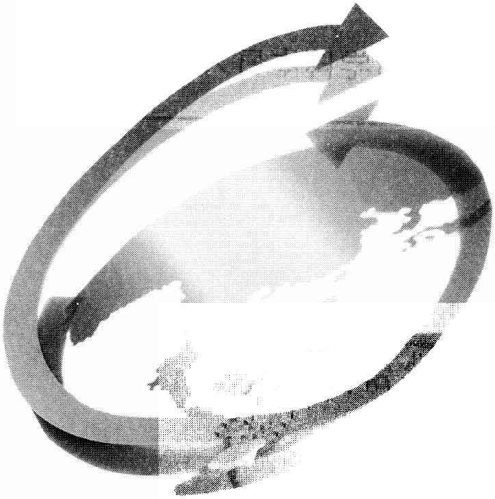
野村総合研究所

NRI

アジアの発展とリスク

中国、NIEs、アセアンの政治・経済展望

野村総合研究所
東京国際研究クラブ　著



執筆者一覧

第Ⅰ部第Ⅰ章　関　志雄（経済調査部主任研究員）
第Ⅱ章　大塚正修（政策研究センター主席研究員）
第Ⅲ章　大塚正修　李　粹蓉（経営開発部）
第Ⅳ,Ⅴ章　筆宝輝子（経済調査部）佐々木史子（仝）
室賀絵里（仝）吉本　元（仝）
第Ⅵ章　大塚正修　関　志雄
第Ⅱ部　堀口守雄（情報リソース部主任研究員）
監　修　大塚正修

アジアの発展とリスク——中国、NIEs、アセアンの政治・経済展望——

1993年10月1日初版発行
定価2,000円（本体1,942円・税58円）
著　者　株式会社 野村総合研究所
財団法人 東京国際研究クラブ
発行人　水口　弘一
発　行　野村総合研究所 情報リソース部
〒240　横浜市保土ケ谷区神戸町134番地ＮＲＩタワー
編集・販売　ＴＥＬ　045(333)8100（代表）
045(336)8540（直通）
ＦＡＸ　045(336)1445
印刷・製本　株式会社 シーク・イシバシ

落丁・乱丁本はお取り替え致します。
© Nomura Research Institute,Ltd. 1993 Printed in Japan.

ISBN4-88990-053-5 C0033 P2000E

いかなる形式においても，本書の一部または全部を無断で転載、複製、翻訳することを禁じます。

はじめに

アジア太平洋諸国は世界経済の低迷が長引いているにもかかわらず、安定的な高成長を維持しております。このようなアジア経済のダイナミズムは、工業化の波がＮＩＥｓ、アセアン、中国へと次々に拡がり、常にニューフロンティアを生み出し、その中で相互依存関係を深化させてきたこと、また、各国が開発と経済成長を政策の中心課題とする「アジア型近代化」の体制を採用してきたこと、などによります。

我々は、このようなダイナミズムがこれからの世界経済、そしてアジア各国の政治・経済変化のなかで維持されていくのか否かに強い関心を持ち、研究を続けて参りました。そして、東京国際研究クラブは、アジア九カ国・地域の研究ネットワークである「アジア国際研究クラブ」結成四年目に当たる九三年の統一研究テーマを「二〇〇〇年のアジア経済」とし、新たに中国を加え、研究・討論を重ねて参りました。アジアの各研究機関が自国の中期経済展望をまとめることと並行して、野村総合研究所は総論と各国編を含む報告書の作成を担当いたしました。その際、アジアの成長に関する研究は多いものの、世界経済の低迷や、各国・域内政治の不安定性などアジアにとってのリスクの顕在化や、各国の抱える産業基盤の充実などの課題を

考慮した研究が少ないことに鑑み、我々はアジアの発展とリスクを見据えたシナリオ分析を採用することといたしました。

この共同研究成果を踏まえて、東京国際研究クラブと野村総合研究所の共催による「93 Asiaフォーラム」を一〇カ国・地域の研究所代表の出席のもとに九三年四月八日に開催いたしました。

本書は、野村総合研究所の報告書を基礎に、各研究所の見解を紹介しながら、まとめたものであり、アジア各国の生の声を伝えるために、「93 Asiaフォーラム」の記録を第二部として掲載しております。

アジア地域は日本にとってますます重要になっております。二一世紀に日本とアジアは経済的な相互依存関係が深化するだけでなく、政治的・社会的にもより緊密の度を増し、多角的・多元的な関係を構築していくものと想定されます。本書が、アジアの理解とこれからの発展と協力にとって少しでも参考になれば幸いであります。

一九九三年九月

財団法人東京国際研究クラブ
理事長　水口　弘一

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

目次

はじめに

第一部　アジア型政治・経済の構図とその将来

第一章　飛躍するアジア経済

第1節　アジア経済のダイナミズム……12

1　雁行形態的経済発展／12　2　進む貿易構造の高度化／15

3　広がるニューフロンティア／18　4　深まる域内の相互依存／25

第2節　高成長を持続するための条件……30

1　世界経済の安定成長／30　2　域内政治の安定／32

第3節　九〇年代のシナリオ……35

1　標準シナリオ…ダイナミズムの持続／35

2　代替シナリオA…世界経済の低迷／39
3　代替シナリオB…域内の政治不安など成長阻害要因の影響／40

第II章　変化する政治と社会
第1節　意外に多い政治変動……44
第2節　権威主義体制からの離脱……45
1　共和制が主流の政治体制／45　2　実態としての権威主義／48
3　正統性のゆくえ／53　4　権威主義体制からの離脱／64
第3節　変容する社会主義……67
1　唯一の選択／67　2　中国の考える政治改革／75

第III章　変身する中国
第1節　一三年間の模索と内外の経験への回答……86
1　改革の構図／87　2　困難だったマクロ経済運営／92
3　増大する構造的困難／101
第2節　本格化する市場経済の導入……110

1　加速する改革と開放／110　2　行政改革と規制緩和／112
3　国営企業から国有企業へ／115　4　沿海から三沿へ／118
5　農業改革の光と影／122　6　進展する金融制度改革／128
7　引き返せない市場経済化／141

第3節　成長の六つのハードル……146
1　限られる政策執行能力／147　2　国有企業の活性化／152
3　産業構造の隘路／154　4　就業問題と所得格差／156
5　外部環境の動向／160　6　国内政治リスク／162

第4節　二〇〇〇年の中国経済……165
1　標準シナリオ…高成長の持続／165
2　代替シナリオA…内喜外憂による成長の鈍化／168
3　代替シナリオB…変動大きい国内経済／169
4　アジア最大のニューフロンティア／170

第Ⅳ章　再活性化するNIEs

第1節　期待大きいニューフロンティアへの展開……174

第2節　香港…華南経済圏で飛躍を図る……176
1　返還過渡期の期待と苦悩／176　2　高付加価値社会への脱皮の道／180
3　二〇〇〇年の香港経済／182
第3節　台湾…質的成長への突破口を探る……188
1　表面化する成長の制約／188　2　質的成長への試み／192
3　二〇〇〇年の台湾経済／196
第4節　韓国…先進国入りをめざす……200
1　迫られる産業構造の高度化／200　2　二〇〇〇年の韓国経済／209
第5節　シンガポール…ビジネス・ハブをめざす……215
1　カギ握る域内協力の深化／215　2　二〇〇〇年のシンガポール経済／222
第Ⅴ章　拡大するアセアン経済圏
第1節　必要な域内協力の拡大と深化……226
第2節　マレーシア…第五のNIEsをめざす……230
1　域内経済協力と効率的社会の創造／230
2　二〇〇〇年のマレーシア経済／236

第3節　インドネシア…持続的発展をめざす……240
1　進む経済構造転換／240　2　二〇〇〇年のインドネシア経済／247
第4節　フィリピン…経済再興を模索する……252
1　カギ握るボトルネックの解消と構造調整／252
2　二〇〇〇年のフィリピン経済／258
第5節　タイ…成長のダイナミズムを保つ……263
1　顕在化する成長のボトルネック／263　2　二〇〇〇年のタイ経済／265
第6節　ベトナム…中国に続くニューフロンティア……273
1　カギを握る資金不足の解消／273　2　二〇〇〇年のベトナム経済／277
第Ⅵ章　二一世紀に向けて
第1節　成長の成果と課題……286
1　ウエイト増すアジア経済／286　2　求められる国内の構造調整／288
第2節　多層的・多角的相互依存への移行……301
1　直接投資と貿易の変化／301　2　局地経済圏の拡大と深化／303
3　定着する自律的成長／309

第3節　強化される多国間経済協力……311
1　主役となるＡＰＥＣ／311　2　地域協力の方向と日本の役割／315
第4節　アジア型近代化の評価……317
第5節　進化するアジア……319

第Ⅱ部　'93 Asiaフォーラム——二〇〇〇年のアジア経済

アジアシンクタンクの見解
アジア経済の発展の方向とリスク……325
競争と協調が発展の基本条件……330
アジア経済の新しい牽引力——華人経済圏……340
Ｑ＆Ａ……347

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第Ⅰ部

アジア型政治・経済の構図とその将来

第1章

飛躍するアジア経済

第1節　アジア経済のダイナミズム

1　雁行形態的経済発展

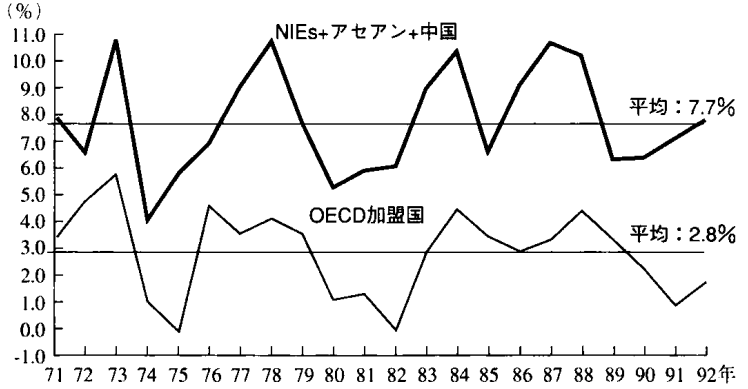
アジア太平洋地域は、過去三〇年間にわたって世界一の高成長地域であり続けた。なかでもＮＩＥｓとよばれる韓国、台湾、香港、シンガポールは一九六〇・七〇年代に引き続き、八〇年代においても前半の世界経済低迷や後半の劇的な通貨調整と保護主義の台頭など厳しい国際環境に直面するなかで、八％台の高成長を維持してきた。一方、アセアン諸国はこれまでＮＩＥｓに後れをとってきたものの、八〇年代後半には直接投資ブームを梃子に工業化のペースを加速させてきている。中国も七九年に改革・対外開放政策を打ち出して以来、年平均八％台という高成長を達成している（図Ⅰ―1）。

アジア地域における経済発展は、異なった発展段階にある国々による追い上げの過程としてとらえることができる。この「雁行形態的経済発展」において各国は、工業化の発展段階に応じてそれぞれ比較優位を有する工業製品を輸出するといった分業関係を維持しながら、工業化水準を高めている。追い上げる国も、追い上げられる国も、それぞれがより高い工業化の発展段階をめざして積極的に産業構造調整を進めていくということが、地域全体のダイナミックな発展の原動力となっている。

この過程において直接投資が大きな役割を果たしている。アジア地域には、日本を頂点として、ＮＩＥｓ、アセアン、中国と、実に多様な経済発展段階の国々が並存している。そのなかで、発展段階の高い国から低い国への直接投資の流れは生産要素の利用効率を上昇させ、双方の成長と産業構造の高度化をもたらすこととなった。受入れ国側は直接投資が流入することで過剰な労働力を吸収すると同時に、希少な資本・技術・経営ノウハウを蓄積して先発国への追い上げを進めてきた。また投資国側では、対外直接投資に伴い国内の余剰労働力等が衰退産業から新興産業へ振り向けられ、それによって産業の高度化が促進された。

アジア地域向けの直接投資がこれまで積極的に行われてきた理由は、アセアン、中国などのホスト国側が、外資の受入れと輸出・原材料輸入の面できわめて開放的な政策をとってきたことに加え、日本、ＮＩＥｓなどの投資国側では八五年以降の世界的な

図Ⅰ－１　アジアとOECD加盟国の経済成長率推移



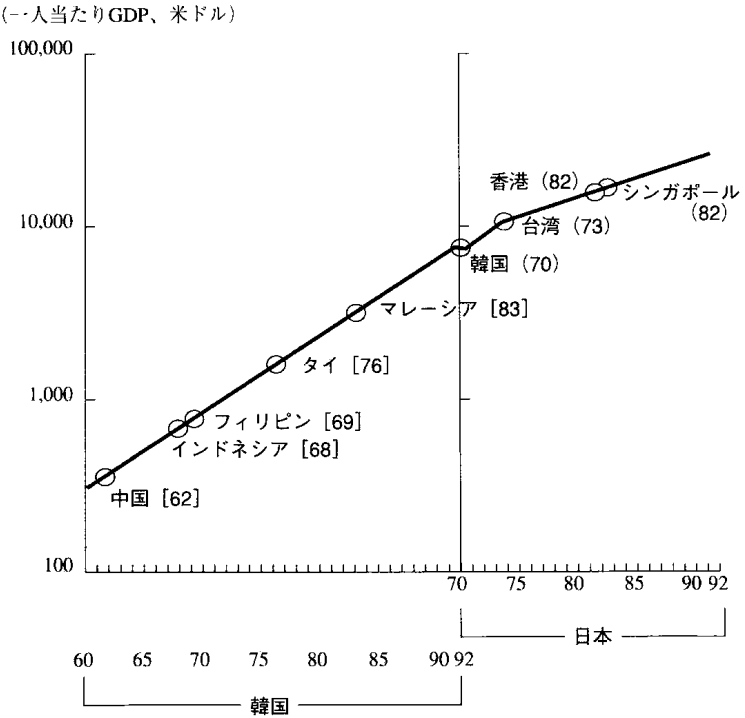
（注）「NIEs+アセアン+中国」の成長率は、韓国、台湾、香港、シンガポール、インドネシア、マレーシア、タイ、フィリピン、中国の９カ国の経済規模ウエイト換算による。

（出所）各国統計、IMF, "International Financial Statistics", "World Economic Outlook" より野村総合研究所作成

通貨調整や国内のコスト上昇圧力を受けて、海外進出による競争力の維持強化を余儀なくされていたことがあげられる。貿易、直接投資、技術移転などを通じてアジア太平洋諸国間の経済関係はますます緊密なものになってきた。この過程で産業の国際的再編が進み、各国の輸出構造はＮＩＥｓが労働集約型から資本・技術集約型へ、アセアンが一次産品依存型から労働集約型へと移行してくるなど、先進国へのキャッチアップが進んでいる。

発展段階を示す一人あ

図Ⅰ－２　アジア諸国の発展と現段階（日本・韓国との比較）



（注）１．各国のデータは92年、［　］内は韓国、（　）内は日本を基準とした該当年を示す。
２．米国のGDPデフレーターを用い、92年を基準に実質化した。
（出所）各国統計、IFSより野村総合研究所作成

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com